

---

# 魔戒騎士と魔剣士が幻想入り

yousyun1996

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔戒騎士と魔剣士が幻想入り

### 【Nコード】

N9990X

### 【作者名】

yousyun1996

### 【あらすじ】

伝説の黄金騎士、牙狼の称号を持つ男 冴島 鋼牙はいつも通りに出かけていると、強力な魔力を感じる。そこに向かうと、女性が居て、瞬間、鋼牙の姿は消えた。

伝説の魔剣士、スパードの息子 ダンテはいつもの様に依頼を受け、その場所に行くと、女性が居て、瞬間、ダンテの姿は消えた。

鋼牙とダンテは幻想郷に落とされ、出会う。

鋼牙とダンテ、果たして彼等の運命は…

## 第1話 騎士と剣士と幻想郷（前書き）

初めまして、もしくはこんにちは。

yousyunです。

今回はコラボ作、魔戒騎士と魔剣士が幻想入り です。

みなさんは知っている方も多いと思います。

牙狼とデビルメイクライ、僕的には良い組み合わせだと思っています。

ではどうぞ。

## 第1話 騎士と剣士と幻想郷

初めまして かな？

俺の名はザルバ、魔導輪だ。

これから話すのは、鋼牙と気の軽い魔剣士の幻想郷での物語だ。  
その日俺達は、いつも通り出かける準備をしていた。

鋼牙「…ん？」

ザ「どうした？鋼牙。」

鋼牙「何でもない…行ってくる。」

ゴンザ「行ってらっしゃいませ、鋼牙様。」

大通り

ザ「…ん？鋼牙、強い魔力を感じる！」

鋼牙「何？」

ザ「北の方からだ！」

鋼牙「…」

ダッ

あの時、強い魔力を感じたのは確かだ…だがそれ以上に奇妙な物を俺達は見た。

ダッ

鋼牙「…ザルバ、どっちだ。」

ザ「目の前だ…」

鋼牙は見た。

そこには日傘をさした若い女がいた。

金髪の長い髪、西洋の珍しい服を着ている。

？「・・・」

女はこちらを見て笑みを浮かべる。  
すると…

スウオーー

鋼牙「？ザルバ！これは何だ？」

ザ「俺もわからない！だがわかるのは…」

「何処かへ連れて行かれちまうって事だ？」

さて、お喋り指輪の話しも終わったし、そろそろ俺も始めるか…

俺はダンテ。

これからよろしく頼むぜ、相棒。

俺はある女から依頼を受けて、その場所へ向かうところだった。

ダンテ「確か依頼を受けた場所がここだったな。」

何もない静かな場所。

悪魔共が現れてもおかしくないな。

ダンテ「いるんだろ？出て来いよ。」

？「ウフフ…」

女の声が後ろからする。恐らく、こいつが親玉だろう。

ダンテ「隠れてたって何もねえぜ。俺と闘うんだろっ？. だったら出て来い。」

？「・・・」



女は姿を現した。

金髪の髪の上にはヒラヒラした帽子。

アジアの服を着ているみたいだな。

しかも、夜に日傘。

いよいよ怪しくなってきた。

スウオーー

ダンテ「何だ？俺を何処かへ連れて行く気か？ふっ…イイぜ、しばらく暇だったからな。何処へでもついて行ってやるよ。」

幻想郷

スウォー

鋼牙「うあっ？」

スウォー

ダンテ「よっ」と

鋼牙視点

鋼牙「うっ…」

ここは何処だ？

あの女は一体？

ホラーか？いや違う…あれはホラーでは無い…なら一体…

ダンテ「ちよつと良いかい？あんだ。」

銀髪の男は俺にそう聞く。

鋼牙「…誰だ？」

ダンテ「俺はダンテ、デビルハンターさ。」

鋼牙「俺は冴島　鋼牙、魔界騎士だ。」

ダンテ「…日本にも俺みたいな奴がいたんだな。」

鋼牙「そんな事はどうでもいい…ここは何処だ。」

ダンテ「それは俺も聞きたいくらいだ。」

鋼牙「ザルバ、ここが何処か調べてくれ。」

ザ「…すまない、全くもって特定できない。」

ダンテ「おっ！珍しいな。喋る指輪なんて、初めて見たぞ。」

ザ「そう言つが、お前は喋る武器を持っているようだな。」

ダンテ「何で俺が持っているってわかるんだ？」

ザ「魔力によって言葉を持っている奴等はだいたいわかる。しかし…本当によく喋るみたいだな。」

ダンテ「ああ、そりゃな。」

ダンテは腰の辺りから何か取り出す。

ダンテ「そら、喋っていいぞ。」

？「ふゝ…お主、名は何と申す。」

ザ「まずは自分から名乗るのが礼儀だろ。」

？「それは失礼した。我が名はアグニ！」

？「我が名はルドラ！」

ザ「俺はザルバだ、よろしくな。アグニとルドラ。」

アグニ「こちらこそ話し相手が出来て嬉しいぞ。」

ルドラ「そうだ、今まで話し相手と言えば兄者しかおらんからな。」

アグニ「お、弟よ…お前、兄と話しをするのは嫌いなのか？」

ルドラ「そうは言っていない兄者！ただ話す相手が少ないと言っているだけだ！」

アグニ「弟よ…兄は悲しいぞ…」

ルドラ「あ、兄者！」

ダンテ「時間切れ、お喋りはそこまでだ。」

ザ「なる程、お前が嫌がるのも無理ない。」

鋼牙「よく喋るのはお前も一緒だろ、ザルバ。」

ザ「俺はあそこまでうるさくないぞ。」

ダンテ「確かに、こいつらに比べればまだ良さ。」

ザ「…ん？誰か来るぞ！」

ザルバは何かを感じたようだ。  
一体何が来る？

？「わは〜人間だ〜。」

鋼牙「？」

ダンテ「？」

まあ、今日はこれくらいだ。

続く  
…

宵闇 次回！



## 第1話 騎士と剣士と幻想郷（後書き）

ちなみに説明の主はザルバです。

次回は二人を紹介したいと思います。

いらなと言われてもやります！

感想待ってまゝす！

ではまた次回。

## 鋼牙とダンテの紹介（前書き）

作者「今回は鋼牙とダンテの紹介なんですが、イメージ通りにいか心配です…」

ザ「牙狼のドラマやスペシャルを見ていたお前なら大丈夫だろ。デビルメイクライだって、全作プレイしたんだろ？」

作者「それでも書けないのが僕なんですよ、ザルバさん……」

ザ「この通り心配だらけの作者だが、見てやってくれ。」

## 鋼牙とダンテの紹介

冴島 鋼牙

種族：魔戒騎士（人間）

身長：182cm

魔戒騎士・牙狼の鎧を召還して戦う青年。

数々の戦いを経て、魔戒騎士として無敵の存在になりつつある。

数々の戦いを経て成長しており、現場の残留思念からホラーの能力・特徴を探れる。

幻想郷では人外の能力や特徴を探れる。

武器

魔戒剣（ソウルメタル）

両刃の剣。

ソウルメタルで作られているため、所持者の心の有り様によって重さが変わる。

（一般なら超重量で持ち上げられないが、心が強いもしくは修行を積んだ戦士の場合は羽毛のように軽くなる。）

鋼牙が魔戒剣で天を裂くと鎧を召還、牙狼になる。

牙狼になると、魔戒剣が牙狼剣に変化して、威力も上がる。  
リーチも少し長くなり、色も黄金、刀身には紋章が現れる。

## ダンテ

種族：半人半魔（人間の母親×魔剣士の父親）  
身長：183cm

伝説の魔剣士スパイダの息子。  
自身も悪魔を狩る、

、悪魔も泣き出す、最強の悪魔狩人（デビルハンター）  
その強さは円熟の域に達し、ますます冴え渡る。  
ダンテは魔の力を解放すると、魔人化する。

魔人化すると、姿が悪魔のようになり、力も跳ね上がる。その力は  
父親を超える。

沢山の武器を所持しているが、ほとんどは時空神像に保管している。

## 武器

リベリオン（意味は 反逆）  
リーチの長い両刃大剣。

威力も高く、ダンテ愛用の武器。  
この剣は父親の形見でもある。  
刀身にドクロ彫りの紋章がある。

エボニー&アイボリー

連射長けている二丁拳銃。

意味はピアノの黒鍵と白鍵。連射長けているのはその意味もある。

ダンテが力を注ぐと弾丸が魔力を帯び、威力が上がる。

剣とのコンボが繋げやすく、使い勝手が良い。

イメージ通りにいきましたでしょうか？

できれば感想お願いします。

## 鋼牙とダンテの紹介（後書き）

ザ「どうだった？」

作者「まあまあですね。満足でも無く、不満でも無いです。」

ザ「今回は鋼牙とダンテが敵と戦うんだよね？」

作者「はい、1話を見ている人なら大抵わかる相手です。初戦なので短めだと思っています。  
ではまた次回。」

## 第2話 宵闇（前書き）

宵闇 でわかる方はかなり多いと思います。  
敵はそう… なのかーです。

ではどうぞ。

## 第2話 宵闇

よう、また会ったな。

今日は前回の続きだ：楽しんで行ってくれ。

？「わはゝ人間だゝ。」

鋼牙「？」

ダンテ「？」

ザ「何だお前は？」

？「私はルーミア、ねえ、あなた達は食べても良い人間？」

ダンテ「食べるだよ。どうやら俺達はお嬢ちゃんのディナーになるようだぜ。」



鋼牙「ザルバ、あの娘は？」

ザ「…ほお、今時珍しいな。」

鋼牙「何だ？」

ザ「こいつは妖怪だ、ホラーじゃない。」

鋼牙「妖怪、こいつの能力がわかるぞ。」

ザ「本当か？」

鋼牙「闇を操る程度の能力、どう言う闇を操るのかわからないが、とにかくわかる。」

ダンテ「闇か…どんな物か、見せてもらおうか。」

ル「お腹が減った、いただきます！」

ルーミアは鋼牙達に向かって飛ぶ。

ダンテ「鋼牙、行くぞ。」

鋼牙「ああ。」

シーン…

シャキーン

ダンテと鋼牙は剣を抜く。  
そしてルーミアを横に跳んで避けると…

鋼牙「うおおおおお！」

ダンテ「lets rock！」

ダンテと鋼牙はルーミアに向かい、剣を振る。

ル「うわ？」

ルーミアは剣を避ける。

ダンテ「ショーはこれからだ！」

ダダダダン！

ダンテは愛用の銃、エボニー&アイボリーを構えて撃つ。

ル「わっ！」

ルーミアは弾丸を飛んで避ける。

ザ「飛べるだど？」

鋼牙「ふんっ！」

ブオン！

鋼牙はルーミア目掛けて魔戒剣を投げる。

フオフオフオフオン…

魔戒剣はルーミアに向かって回転しながら飛んで行く。

ル「剣が飛んでる！」

サッ

ルーミアは剣に驚きながらも軽く避ける。

ル「お兄さん強いね、私も本気をだすよ！」  
「夜符 ナイトバード！」

ル「ミアは見た事の無い札を取り出し、そう唱えると、後ろに闇が現れ、そこから黒い鳥が飛ぶ。」

鋼牙「何だあれは？」

ダンテ「闇はあれの事か。」

ダダダダン！

ダンテは黒い鳥に向かって銃を連射。

ポポボン！

黒い鳥は銃弾によってボンと消える。

ダンテ「さて、次は何だ？」

ル「赤いお兄さん凄いね！やる気が出て来たよ！」

「月符　ムーンライトレイ！」

ルーミアは弾幕を放ちながらレーザーを放つ。

鋼牙「レーザーか…」

鋼牙は弾幕を避けながら剣の胴を向ける。  
すると…

ピーン

剣の胴がレーザーを跳ね返す。

ル「ウソ？」

ルーミアはレーザーが跳ね返るのが想定できなかったのか、レーザーはルーミアの腕をかする。

ビシュッ



ル「痛っ！」

鋼牙「はあああああ！」

スバッ

鋼牙は空高くジャンプをし、ルーミアに剣を振る。

ダンテ「そら！」

ダンテも鋼牙と同時に剣を構え、剣を振り上げると同時にルーミアに向かってジャンプをする。

ル「うわわわ…」

ルーミアは頭を腕で押さえ、膝を曲げる。

鋼牙「ダンテ！」

ダンテ「わかってるよ。」

ダンテは剣を背中に掛け、ルーミアの首の後ろを叩く。

ドンッ！

ル「うつ…」

ルーミアが落ちそうなところを鋼牙が抱える。

スタッ

ザ「で、どうするんだ？このお嬢ちゃんは…」

鋼牙「どこか、休ませられる場所があれば…」

ダンテ「おい、あそこに何か見えるぞ。」

ダンテが指した場所には紅い館が建っていた。

鋼牙「しばらくあそこで休もう。」

ダンテ「賛成だ。」

鋼牙はルーミアを抱えたまま、ダンテと紅い館に向かった。

さあ、変な紅い館が見えたぜ。  
こっからが本番だ。

次回！

魔館

続  
く  
…

## 第2話 宵闇（後書き）

次回はあの 魔館に行きます。

鋼牙とダンテは訳もわからず怪しまれてしまい、大変になります。  
ちなみに牙狼はレッドレクイエム後、デビルメイクライは4の後、  
2の前です。

ではまた次回。

### 第3話 魔館（前書き）

今回は 魔館へ鋼牙とダンテが行きます。  
ついに本気をだすか…

ではどうぞ。

### 第3話 魔館

前回のお嬢ちゃんを休ませるためにあんな目にあつとはな…

鋼牙とダンテが紅い館を目指して歩いていると…

ダンテ「おっ、あれは…」

鋼牙「どうした？」

ダンテ「もしかして…鋼牙、ついて来い。」

ダンテは木を避けながら進む。すると…



ダンテ「やっぱりな……」

鋼牙「何だこれは？」

ダンテ「こいつは時空神像って言ってな、……説明できないけどとにかく凄い物なんだ。しかし、ここにもあるとは……」

鋼牙「何をしている？」

ダンテ「武器換えだ。」

ダンテは腰からアグニ&ルドラを取り出す。

ダンテ「そら！」

シューーン

ダンテはアグニ&ルドラを時空神像に投げる。すると時空神像に吸い込まれ、今度は時空神像から籠手が現れる。

ダンテ「これで良し。」

ダンテは籠手を手や足に装備すると、急に…

パーーン

籠手は光を帯び、ダンテの力となる。

ダンテ「じゃあ、行こうぜ。」

鋼牙「ああ。」

鋼牙とダンテは再び歩く。  
そして紅い館へ…

ザ「デカいな…」

ダンテ「さあて、お邪魔するのでしょうか。」

鋼牙「門番がいる筈だ。」

鋼牙がそう言った直後、鋼牙の視線には居眠りをしているチャイナドレスの女性が居た。

鋼牙「・・・」

鋼牙は信じられないと言う顔をしながら門番の近くに寄る。

？「zzz…ムニャムニャ…」

鋼牙「起きろ。」

ダンテ「俺に任せろ。」

ダンテはエボニーとアイボリーをクルクル回し、構える。ダンテ行  
う事、それは…

ダダダダダダン？

ダンテはエボニーとアイボリーを門番に当たらないように乱射する。

？「うえ！うわわわわ？」

門番は銃弾に驚き、片足立ちで壁に張り付く。  
銃弾は門番の形を作る。

ダンテ「お目覚めかい？」

？「・・・」

鋼牙「すまないが…「何ですかあなた達は！もしや…お嬢様を狙った暗殺者…そうとわかったらこの私が直々に成敗してくれる！」…」

ザ「おいおい、勘違いも甚だしいな…」

ダンテ「良いね、勘違いは置いとくとして、闘うんだろ？なら俺が相手だ。」

？「あなた、名はなんと…」

ダンテ「俺はダンテ、悪魔狩人さ。」

？「私は紅　美鈴（ほん　めいりん）、あなたは私の拳に勝てますか？」

ダンテ「拳か、ちょうど良い、久々にベオウルフでぶっ飛ばすか。」

ダンテはベオウルフと言う籠手を構える。  
ベオウルフは光を発し始める。

ダンテ「come on!」

紅「では、行きますよ!」

ダン

美鈴はかなりの速さでダンテに近づく。

ダンテ「来な!」

紅「はあああああ！」

美鈴は拳をダンテの顔面目掛けて繰り出す。

ダンテ「ハア！」

ダンテは美鈴が拳を繰り出すと同時に自分もタイミングよく左ストレートを繰り出す。

ベギッ

拳が届いたのは…



紅「うふっ！…うぐ！」

ダンテの拳だった。

美鈴は吹っ飛んで何回かバウンドする。

紅「ぐは…カウンターとは…やりますね…」

ダンテ「まあな。」

紅「あなたとは本気で闘えそうです。」

「撃符「大鵬拳！」」

美鈴は札を取り出し、そう唱えると、美鈴はダンテに近づき、拳を振り上げる。

ダンテ「！」

ガキーン……！！

紅「な、何？」

ダンテ「STYLE……ロイヤルガード。」

ダンテは美鈴の拳を腕一本で防ぐ。

ダンテ「お前達のその札。一体どうなっているんだ。」

紅「スペルカードを知らないんですか？」

ダンテ「スペルカード？それってこれの事か？」

ダンテはジャケットのポケットから札を取り出す。

紅「！」

ダンテ「そうなんだな。これは…」

「わかった！」

「一撃「リアルインパクト！」」

ダンテはスペルカードを見て唱える。  
すると…

パァーン

ベオウルフが発光し、ダンテは素速く美鈴に近づき…

ダンテ「ハアアアア？」

ズゴッ！！！

紅「うつ…ぐ…」

ダンテ「フンッ！」

スガーーン！！！！

ダンテのベオウルフの一撃は美鈴の腹を打ち抜く。  
ダンテは拳を振り上げながら高くジャンプ。

美鈴はダンテの一撃により、空高く舞い上がる。

紅「ぐぐ…ぐは？」

美鈴は舞い上がった後、急降下して落ちる。

ダンテ「STYLE…トリックスター。」  
「エアトリック！」

シュウン

ダンテは瞬間移動で美鈴の真下に向かい、落ちて来た美鈴を抱える。

ダンテ「気絶してるな…レディには手加減した筈だが…」

ダンテのいつも以上の自分の力に驚く。

ダンテ「鋼牙！お前のポケットに何か入ってないか？」

鋼牙「ポケット？…これは…」

鋼牙は見た事の無い札をポケットから取り出す。

「ダンテ「そいつはスペルカードって言って、必殺技の形なんだとよ。」

鋼牙「これが…」

ザ「スペルカードか…おもしろい、そいつを使えば必殺技が使える  
と言う仕組みか…」

ダンテ「おい、早く行こうぜ。」

鋼牙「そうだな。」

鋼牙とダンテは門を開け、先に進む。

扉が目の前に見える。  
鋼牙とダンテは扉を開ける。すると…

ガチャ！

ギギギ…

巨大な扉は音を起てて開く。

ザ「豪く広いもんだ…」

ザルバがそう言つと…



シュン

ストン

突然ナイフが足元に刺さる。

鋼牙「誰だ？」

？「誰だはこっちの台詞。」

声の方向にはメイド服の女性が居た。

？「美鈴を倒すと言う事は、実力が期待できるわね。」

鋼牙「待ってくれ！俺達はただこの娘を休ませたいだけなんだ！」

鋼牙は抱えているルーミアを女性に見せる。

？「なる程、失礼致しました。この娘はしばらく休ませるとしまし  
よう。」

女性がそう言つと、何処からともなく妖精が現れ、ルーミアを連れ  
て行った。

ザ「妖精…この世界には珍しい物がたくさんあるな。」

？「とりあえず、あなた達の御名前を聞いてもよろしいでしょうか？」

鋼牙「冴島　鋼牙だ。」

ダンテ「俺はダンテ、よろしく。」

？「十六夜　咲夜（いざよい　さくや）です。突然ですが、あなた達の実力を試させてもらいます。」

鋼牙「…なら俺が相手なる。」

鋼牙は前に出る。

鋼牙（時を操る程度の能力か…おもしろい。）

咲「では…」

シュッ

咲夜はナイフを数本投げる。

鋼牙「ふんっ！」

カキン

鋼牙はナイフを剣ではじく。

咲「やりますね、では…」  
「幻符「殺人ドール！」」

咲夜はジャンプをし、周りにナイフを放る。

ザ「鋼牙！あれは奇術だ、恐らくナイフはこっちに来る！」

ザルバの言う通り、ナイフは少し静止した後、鋼牙に向かって飛んで来る。

鋼牙「！」

カキカキ カキン

鋼牙は飛んで来るナイフを全て剣で弾いた。

咲「全て弾くとは…どうやら前面の攻撃に強いと見ました。なら…」

「速符「ルミネスリコシエ」」

「側面の攻撃ならどうですか？」

咲夜は一本のナイフを壁に向けて投げる。

コン

ナイフは壁に刺さらずに跳ね返る。

コン コン コン コン

ナイフは壁のあちこちを跳ね、鋼牙にあたりそうになる。

コン

壁を跳ね返り、今度は鋼牙に真っ直ぐ向かって飛んで来る。

鋼牙「はあ！」

カキン！

鋼牙は後ろのナイフに気づき、剣で弾く。

鋼牙「今度はこっちの番だ！」

ズバッ

鋼牙は高くジャンプをし、剣を構える。

ブン

咲「甘いですよ。」

咲夜は軽く避けるが…



鋼牙「甘いのはそっちだ！」

フオフオフオフオン…

鋼牙は振り向いた瞬間、剣を投げていた。

咲「なっ！」

「時よ止まれ！」

咲夜はそう言うと、今度は剣がこっちに向かって来る。

鋼牙「！」

パッ

鋼牙は剣をキャッチする。

咲「私をここまで追い詰めるとは…」

鋼牙「どうした、本気で来い！」

咲「では…覚悟してください、死んでも知りませんから…」  
「幻世「ザ・ワールド！」」

咲夜は大量のナイフを投げると…

ビシューーン

世界が止まり、咲夜はナイフを新たに大量に投げる。

ビシューーン

世界が動き出し、前後の無数のナイフが鋼牙を襲う。

鋼牙「・・・」

スパー

パァーン

鋼牙は剣で天を裂く。すると裂けた天から黄金の鎧が現れ…

ガキン

鎧は鋼牙の身体に貼り付き、それぞれが腕、脚、体、になり、そして…

ガシン

頭が被さり、鋼牙は黄金の鎧騎士になる。  
飛んで来るナイフは鎧によって全て弾かれる。

咲「なっ…」

咲夜は驚いた。

突然鋼牙が鎧を身につけてナイフの全てを弾いた。しかもその神々しい姿に目を奪われる。

ガシ ガシ ガシ

鋼牙は鎧の姿で咲夜に近づく。

鋼牙「勝負あったな。」

鋼牙は黄金の剣を咲夜に向ける。

咲「…はい、私の負けです。」

ガシャーン！

鋼牙は黄金の鎧を解除した。

咲「では…お嬢様と会って頂けますか？」

鋼牙「ああ。」

ダンテ「良いぜ。」

咲「では付いて来てください。」

さて、いよいよこの館の主が登場だ。

続く  
…

次回！  
紅魔

### 第3話 魔館（後書き）

次回はあのお嬢様とご対面です。  
ダンテもそろそろ…

ではまた次回。



#### 第4話 紅魔（前書き）

今回は例のお嬢様に会います。

あ、ちなみに二人は弾幕を撃ちません。二人は弾幕を撃ちません。  
重要なので…

ではどうぞ。

## 第4話 紅魔

よう、前回はお嬢様と会ったか言ってたが、正直驚いた。あれがお嬢様なのか？とな…

咲「では付いて来てください。」

咲夜は鋼牙とダンテを誘導する。

咲「ここです。」

ザ「ここか…」

かなり大きい扉が目の前に現れる。

コン コン

咲「お嬢様、お客様をお連れしました。」

？「入れて頂戴。」

少女のように幼い声が聞こえると、咲夜は大きい扉の片方を開ける。

ガチャ！

あまり重そうでは無い。

？「ウフフ…待ってたわ。」

椅子に座っていて、そう言うのは青髪の少女。

ザ「待ってた？俺達が来るのを知っていたのか？」

？「ええ、そうよ、ザルバ。」

ザ「俺の名前も知っているとは…気味が悪くなってきた。」

？「咲夜、行って良いわよ。」

咲「はい、失礼しました。」

ガチャン！

？「自己紹介からするわ、私はレミリア・スカーレット。」

鋼牙「俺は冴島　鋼牙だ。」

ダンテ「俺はダンテ。」

レ「ここは紅魔館、私はこの紅魔館の主。あなた達を待っていたわ。」

鋼牙「待っていた？」

レ「あなた達が美鈴を倒すのも、咲夜と闘うのも全てわかっていたわ。」

鋼牙（運命を操る程度の能力…俺達の行動がわかると言っ事か…）

ダンテ「俺達は何をするのかもわかっているのか？」

レ「ええ、あなた達は私と闘う。そして、あなた達はこの私に負ける。」

鋼牙「じゃあその運命を打ち破ってやる。」

シーン

鋼牙は剣を抜く。

ダンテ「そうだな、負けるって言うなら、その負けの運命を勝ちに  
してやるっぜ。」

チャキ

ダンテはエボニーとアイボリーをクルクルと回し、レミリアに向け、

構える。

ザ「吸血鬼…血を吸われないように気をつけろよ。」

ダンテ「吸血鬼か…そう言えば…」

ダンテは背中から紫色のエレキギターを取り出す。

ダンテ「こいつも吸血鬼なんだぜ。」

レ「吸血鬼？」

ダンテ「こいつはネヴァンで名前だな、昔闘った事がある奴なんだ。」

「いつつでこつをコンサートに変えてやるよ。」

ジャーン！

ダンテはネヴァンをかき鳴らす。

綱牙「行くぞ。」

ダンテ「Show time！」

綱牙とダンテはレミリアに向かって走る。

レ「必殺「ハートブレイク！」



レミリアは紅い槍を両手に作り出し、鋼牙とダンテに投げる。

鋼牙「ふんっ！」

サッ

鋼牙は跳んで避けるが、ダンテは…

ダンテ「行くぜ！」

ジャ〜ン!!!

バーン！

ダンテがネヴァンをかき鳴らすと、鳴り響く音色が音波となり、紅い槍をかき消す。

ダンテ「そら！」

ダンテはレミリアの前まで膝で滑り、ネヴァンを弾く。  
するとネヴァンの音色が雷のコウモリとなり、レミリアに向かって飛ぶ。

レ「はっ！」

ババン！

レミリアは弾幕を放ち、コウモリを消す。  
と…

ダンテ「L e t s   r o o k ! ! !」

チャララララッ！！！！

ダンテが高速でネヴァンを弾くと、雷が放たれ、たくさんのコウモリが飛び交う。

レ「何？」

レミリアは驚きながらも、コウモリと雷を避ける。

鋼牙「はあっ！」

鋼牙は剣を振り上げると、剣から真空の刃が放たれ、レミリアに向かって飛んで行く。

レ「それ！」

バン　バン　バン

レミリアは紅い大玉弾幕を放つ。

ブォン

真空の刃は大玉弾幕を一つ切り裂き、残りの大玉弾幕によって相殺。

レ「やるじゃない。」

「獄符「千本の針の山！」

レミリアは弾幕と共に紅いナイフを放つ。  
が、ナイフの量が半端じゃなく多い。

鋼牙「くっ！」

鋼牙は自分に飛んで来るナイフを剣で弾く。

ダンテはベオウルフを着けた右腕を床に向かって力一杯殴り付ける。

ダンテ「STYLE：ソードマスター。」

「光爆「ヴォルケイノ！」

ダンテが殴った地面から光のエネルギー波が放たれ、光のエネルギーに触れたナイフは蒸発、弾幕も共に光に変わる。

レ「くっ…さすがね。」

「神術「吸血鬼幻想！」

レミリアは大玉弾幕を忙しなく放つ。

大玉弾幕の後ろから弾幕が現れ、飛ぶ。

鋼牙「ふんっ？」

スパー

パァーン！

鋼牙は剣で天を裂き、黄金の鎧を召還する。

ガキン

黄金の鎧は鋼牙に装着される。

レ「？」

黄金の鎧の顔は狼のように鋭い牙、耳、口、目は緑色。

例えば鎧だとしても今にもその口を開き、その牙で狩られてしまう程の迫力。

レ「あなた…何者？」

鋼牙「我が名は牙狼！ 黄金騎士！」

鋼牙こと牙狼はその黄金の姿を現す。



レ「黄金騎士…伝説は本当だったのね…」

レミリアはその神々しい姿に見惚れ、攻撃をやめる。

レ「光あるところに、漆黒の闇ありき。」

「古の時代より、人類は闇を恐れた。」

「しかし、漆黒を断ち切る騎士の剣によって、」

「人類は希望の光を得たのだ。」

「これは昔聞いたおとぎ話の一部。それがあなただったとは…」

レミリアただその姿に見惚れるばかり。

ダンテ「へえ、スゲえな鋼牙、なら俺も…」

ダンテはそう言うと、自分の悪魔の力を…

ダンテ「ウウウアアアアア!!!」

ブォーン!!!!

解放する。

姿はまさに悪魔その物。姿は赤く、口からは鋭い歯も見え、背中には黒く大きな翼が生えている。

鋼牙「ダンテ、お前は…」

ザ「すまん、そう言えばダンテを見た時、こいつの種族を特定したら半人半魔だと言っのがわかった。言っのを忘れててな…」

ダンテ「そんな事今はどうでもいい、あいつを倒すのが今の俺達のやる事だ。」

鋼牙「ああ。」

鋼牙は頷くと…

鋼牙「必殺「烈火炎装！」

鋼牙は剣を構え、力を込めると…

ヴォーーン！！！！

緑色の炎が牙狼剣と黄金の鎧を包む。

ダンテ「雷奏「ディストーション」！」

ダンテもネヴァンをかき鳴らし、電撃を溜める。

ダンテ「ハアアアアアア！！！！」

ジャーン！！！！

ダンテが最後に思いっ切りネヴァンを鳴らすと、大量のコウモリが  
一帯となり、強力な電撃を帯びながらレミリアに向かって飛ぶ。

ビリビリリリリ！！！！

レ「うあああああ？」

鋼牙「ふんっ！！！！」

ズバン

ズバン

鋼牙が牙狼剣を十字に斬る。すると、炎が十字の形になり、レミリアに飛んで行く。

レ「！！！！」

「きゃああああああ！！！！」

ズゴン？

レミリアはその一撃で吹っ飛び、壁に直撃。  
レミリアは気絶する。

ガシャーーン！

鋼牙「やったな。」

ダンテ「そうだな。」

二人が武器をしまいながらそう言つと…

ドガーーン!!!

ザ「なんだ今のは？」

この音の正体は…

次回！  
狂魔

続  
く  
...



#### 第4話 紅魔（後書き）

次回はお約束のあの娘です。

牙狼の必殺技に少し困っています。できれば何か良いのが無いか知  
っているなら教えて頂きたいです。

ではまた次回。

## 第5話 狂魔（前書き）

ついにあの娘との対決。

鋼牙とダンテは果たして…

ではどうぞ。

## 第5話 狂魔

さてさて…前回の音を気になって調べに行ったら、あんな事になってたとは…

ザ「なんだ今のは？」

ガチャ

扉が開くと、そこから傷だらけの咲夜が現れた。

鋼牙「どうした？」

鋼牙は倒れそうになる咲夜を抱える。

咲「に…逃げて…ください…！」

？「日符「ロイヤルフレア！」

ボガーーーーン……！！

？「もっと本気だしてよ。」

謎の赤い服の少女が扉から飛んで入って来た。

？「くっ……」

紫髪の少女も扉から入って来た。  
二人共浮いている。

？「あれ？お兄さん達も遊ぼう」

ダンテ「遊ぶのか？」

？「うん、弾幕」

瞬間、少女の眼が怪しく光る。

ダンテ「弾幕ごっこか、おもしろい遊びも存在するんだな。」

ダンテも少女を鋭く睨む。

？「お兄さん達の名前は？」

ダンテ「俺はダンテだ。」

鋼牙「俺は冴島　鋼牙だ。」

？「あなた達は……レミイを倒したの？」

ダンテ「ああ、なかなか楽しめたぜ。」

？「レミイと闘って楽しいだなんて……」

鋼牙「何があつた？」

？「これを見てわからない？」

ザ「まあ、なんとなくわかるが…」

？「指輪が喋つた？」

ザ「俺はザルバ、そう言うお前は何者だ？」

？「私はパチュリー・ノーレッジ、突然だけどあの娘を止めて！」

ダンテ「構わないが、俺達だけで闘う。」

パチュ「あなた正気なの？あの娘は「簡単に言つと邪魔だと言つ事だ。」え？」

鋼牙「わかつたら行け！」

パチュ「…わかつた。」

パチュリーは扉から出て行った。

ダンテ「キツイ事言っな。」

鋼牙「・・・」

？「あゝ、長話で退屈・・・」

ダンテ「大丈夫だ、こっから退屈なんてしないからよ。」

？「…私はフランドール・スカーレット、フランで良いよ。お兄さん、あまり早く壊れないでね？」

フランはそんな事を言う。



ダンテ「鋼牙、行くぞ！」

鋼牙「ああ。」

ダダッ

鋼牙とダンテは素速く走り、フランに向かって剣を振る。

フ「遅いよ」

フランは横に避ける。

ダンテ「こんな単調な攻撃で倒せるとは思ってねえよ！」

ダンテはリベリオンを構え、突進刺突攻撃を行なう。

フ「うわっ！」

フランは飛んで避ける。

ザ「この世界の連中はみんな飛べるのか？」

鋼牙「さあな。」

ズバッ

鋼牙は高く跳び、フランに向かって剣を振る。

フ「よっと。」

フランは軽くかわす。

フ「そろそろ行くよ!」  
「禁忌」クランベリートラップ!」

フランはスペルカードを発動。  
何やら鋼牙とダンテの周囲に呪式が配置され、そこから弾幕が放たれる。

ダンテ「さてと、じゃあ…」

カチャ

ダンテは水平二連型ショットガンを構える。

ダンテ「行け！コヨーテ！」

バン！

ダンテの銃の一つ、コヨーテ・A  
対悪魔用に改造された散弾銃。

フ「銃？」

フランは散らばる弾を見極め、避ける。

ダンテ「STYLE：ガンスリンガー。  
「ガンステインガー！」」

ダンテはフランに近づき、ショットガンを撃つ。

バン！

フ「うつ…」

フランは弾を幾つかくらったようだ。  
フランが着地したその時…

鋼牙「はあ！」

ズバン！

鋼牙は真空の刃を放つ。

フ「くっ！」

「禁忌」レーヴァテイン！」

フランは炎のオーラを帯びた剣を振る。  
すると…

鋼牙「ふんっ！」

ガキン！！！！

鋼牙は剣一本で恐ろしく長い剣を止める。

ダンテ「おら！」

ガキン！

ダンテも剣を振り、炎の剣を止める。

ダンテ「イイイイイイアアア！！！」

鋼牙「うううおおおおお！！！」

バキン！！！！

ダンテと鋼牙が力を込め、炎の剣を斬る。



フ「なっ？」

ダンテ「どうした？お嬢ちゃん、本気で来て良いんだぜ？」

フ「フフ…わかった。」

「禁忌「フォーオブアカインド！」

フランは四人に増える。

鋼牙「本物は…」

ダンテ「片っ端からやるだけだ！」

ダンテは四人に向かってネヴァンを構える。

ダンテ「STYLE：ソードマスター。」  
「刃奏「フィードバック！」」

フォフォフォフォン…

ネヴァンが変形し、刃が現れ、ダンテはネヴァンを回転させる。

フ「それ！」

フランは飛び上がり、弾幕を放つ。

ダンテ「行くぜ！」  
「撃雷「クレイジーロール！」

ビリビリリ！！！！

ダンテは自分ごとネヴァンを激しく回転させ、終わりに思いつ切り  
ネヴァンをかき鳴らす。

ジャ~~~~ン！！！！

かき鳴らした事により、強力な落雷と放電が起こる。

ビシャア~~~~ン！！！！

フ「うわっ!!」

フランの一人が放電により消える。

鋼牙「行くか…」

スパ―

パァー―ン!

鋼牙は剣で天を裂き、鎧を召還する。

ガキン

牙狼「はああああああ！」  
「必殺「烈火炎装！」

ヴォーーン！！！！

牙狼は緑の炎を剣と身に纏う。

牙狼「はあ！！！！」

ズバン！

ズバン！

牙狼は剣でバツ字を斬り、炎がバツ字の形となり、フランに飛んで行く。

フ「くっ！」

バシュ！

炎がフランの一人を切り裂く。

ダンテ「じゃあ、俺も！」

「ウウウアアアア！！！！」

ブォーーン！！！！

ダンテも魔人化をする。

ダンテ「踊符「ダンスマカブル！」

「Are you ledy？」

スバッ

ダンテはフランに一瞬で近づき、剣による無数の連続攻撃を行う。

フ「？」

ズバン！

ザシュ！

ジャシーーン!!!

ダンテ「フオ~~~~!!!」  
「クレイジーダンス!」

ダンテはリベリオンを床に突き刺し、リベリオンを軸に回転しながら蹴る。

バゴッ!

フ「ぐふっ!」

ダンテはリベリオンを引き抜き…



ジャシーーン！！！！

フランを斬る。

またフランの一人が消え、本物のフランだけが残った。

ダンテ「さあ、後が無いぜ。」

牙狼「本気で来い！」

フ「じゃあ、これで！！！」

「秘弾」そして誰もいなくなるか？」

フランの姿が消え、追尾をする弾幕が突然出現する。

ザ「この弾幕、上手い事誘導しないとヤバイぞ！」

牙狼「誘導か。」

ダンテ「STYLE：トリックスター。」

「よし、行くぜ！」

牙狼とダンテは迫る弾幕を誘導する。

弾幕は消えるが、今度は辺りから弾幕が迫る。

牙狼「烈火激竜！」

牙狼は手から深紅の炎を出し、牙狼剣に纏わせる。  
そして、剣を横に振り、超巨大な炎の竜を放つ。

牙狼「行け！！！」

牙狼の言葉と共に深紅の竜は緑炎の竜と化し、辺りの弾幕を一掃する。

フ「？」

竜の一掃により、フランが姿を現す。

ダンテ「ハアアアアア！」

ダンテは武器をネヴァンに換え、フランに向かって飛ぶ。

フ「はあっ！」

ダンテ「ハア？」

ビシャア！

ダンテは手から電撃を放つ。

フ「きゃあああああ……!!」

フランは電撃をくらい、落下する。

ダンテ「そら!!」

ダンテは落ちるフランをかなりのスピードで近づき、抱える。

ダンテ「よっ。」

シューーン

ダンテは魔人の状態を解く。

鋼牙「ふう。」

ガシャーン！

鋼牙も鎧を解除する。

ダンテ「さて、どうする？」

レ「……！フラン！どうして？」

鋼牙「訳は知らないが、暴走していた。」

ザ「全く、姉妹揃ってまともじゃないな。」

レ「何故姉妹だと…？」

ザ「俺もここに来てから何かが目覚めたとも言っのかな？そんな感じだ。」

レ「妹を助けてくれてありがとう。」

鋼牙「良いんだ。」

ダンテ「いつもの事だからな。」

レ「あなた達は泊まる宛はあるの？」

ダンテ「そう言えば…無いな…」

レ「良かったら、一晩どうぞ。」

鋼牙「良いのか？」

レ「フランを助けたお礼よ。」

鋼牙「すまない。」

レ「いいえ。あなた達のお話も聞きたいし。」

恐ろしいお嬢ちゃんも無事退治したな。  
次回は平和になりそうだ。

次回！  
談話



続  
く  
…

## 第5話 狂魔（後書き）

皆様にお知らせです！

牙狼＞GARO＜      ｝MAKISENKI｝

金曜日の1：45      絶讃放送中です！

次回は会話だけだと思います。

ではまた次回。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9990x/>

---

魔戒騎士と魔剣士が幻想入り

2011年11月9日19時05分発行